Japanese Association for National Hospital Medical Technologists, Kanshin Branch

国臨協関信

HPアドレス　http:// kanshinshibu.org

平成26年10月

事務局　〒162-8655 東京都新宿区戸山1-21-1
国立国際医療研究センター病院中央検査部門内
発行者　峰岸正明
編集委員　金子　司・瀬下明子・山崎直樹
印刷所　東洋印刷株式会社
☎03-3352-7443

第42回国臨協関信支部学会　開催される

国臨協関信支部　副支部長　岩　﨑　康　治

平成26年９月13日（土）国立国際医療研究センター国際協力局において第42回国臨協関信支部学会が開催されました。これまでの９月第1土曜日開催から第２土曜日の開催となり、さらに祝日が絡む３連休の初日ということで参加人数の減少を危惧しておりましたが378名と昨年を上回る参加をいただき盛会裡に執り行うことができました。

さて、今学会は、メインテーマを「輝く未来へ！」、サブテーマを「プロフェッショナルとしてチャレンジ」とし、初めてルーチンアドバイザーのご協力で部門別分科会を企画いたしました。検体検査、微生物、病理、生理の４部門において、日常業務を行う上で知っておかなければならない知識、現状把握と問題点について、リスクマネジメント、検査技術の紹介などを講義していただき、さらに参加者による活発なディスカッションがなされました。分科会を取り纏めていただいた渡辺委員長はじめ講師をお願いしました各ルーチンアドバイザーの皆様に感謝いたします。

特別講演は、国立病院機構本部　臨床検査専門職の小松和典先生に「臨床検査を楽しもう！　楽しく検査することから、近未来を考える」と題して、先生の豊富な経験を基に、モチベーションを維持し楽しく働くこと、認定技師取得の在り方、今後の課題、さらには臨床検査の明るい未来についてお話しいただきました。

一般演題は45題の発表がありました。初めての試みである座長二人制の導入で、各セッションとも闊達なディスカッションが繰りひろげられていました。学会賞を受賞されましたお二人おめでとうございました。皆様には益々のご活躍をお祈りいたします。なお、第３会場においてPCの不具合により演者をはじめ皆様にご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫びいたします。

地区会コーナーは、今年から10地区となったこともあり会場ロビーはさらに華やかな雰囲気になりました。その中で優秀賞を受賞されました茨城地区会の皆様おめでとうございました。

学会セレモニーは来賓の皆様にご挨拶をいただき、学会賞、地区会コーナー優秀賞ならびに関信支部表彰の授与式が執り行われ学会は無事閉会いたしました。その後行われた意見交換会は121名の参加で、OB会からの参加もいただき会員相互の親睦そして意見交換をすることができました。

今学会の反省点などを総括し、より良い学会運営を目指し準備していきたいと思いますので会員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

最後に学会運営にあたりご協力いただきました実務委員の皆様、国立国際医療研究センターの皆様そして会員の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

地区会コーナー優秀賞を受賞して

茨城地区会　理事　ＮＨＯ水戸医療センター
山　田　浩　司

平成26年９月13日（土）に国立国際医療研究センターで第42回国臨協関信支部学会が開催され、ポスター展示において茨城地区が地区会コーナー優秀賞を受賞することができました。

４年前に優秀賞が設けられてから年々ポスターの質が向上している印象を受けていたため、他の地区会に見劣りしないポスターを作成するべく案を絞り出しました。まず、地区会活動内容の紹介として定期総会・研修会、ボウリング大会、新年会の写真を市町村の形でトリミングし、それらを組み合わせることで茨城県を象りました。また、学会テーマである「プロフェッショナルとしてチャレンジ」に合わせ、各施設の有資格者の数を地域の“ゆるキャラ”の数で表現しました。技師長・副技師長のイラストは峰岸関信支部長に負けず劣らず絵の才能がある当院の山根技師の力を借り、ポスターを完成させました。

当日、私がポスターを貼るときにはほとんどの地区会のポスターがすでに展示されており、施設の紹介にとどまらず、地域の特色にも触れ、工夫を凝らした素晴らしい内容で見とれてしまうものばかりでした。そのような中、茨城地区の展示スペースは一番端。目立ちようもなく自信もなく、こっそりとポスターを貼りその場を退散したため、優秀賞に選ばれるとは思ってもいませんでした。茨城地区会の方々から祝福の言葉をいただき、ポスターを撤去するときは堂々と剥がすことができました。2位とは僅差だったようですが優秀賞をいただき光栄に思っています。この賞を励みにこれからも茨城地区会を盛り上げていきたいと考えています。最後に、学会開催にご尽力いただいた国臨協関信支部役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

第42回国臨協関信支部学会　学術奨励賞および学会特別賞選考委員会報告

学会賞選考委員長　NHO西新潟中央病院
水　島　美津子

今学会では45演題の発表がありました。初めて発表された会員も多いようでしたが、指導されました技師長様、検査科の皆様にはたいへんご苦労様でした。部門別では生理検査17演題と最も多く、内容別では症例報告14演題、次いで業務支援、チーム医療関連12演題が多い傾向でした。

一次選考は全演題について抄録選考を行い、今回もＲＡ委員より専門的・学術的な評価と、具体的に優れている点や改良点等の指摘も頂き、大変有用でした。これらを踏まえ、選考委員５名による全抄録の精査と、公平性を持って演題を絞り込み、二次選考では発表時間の配分、スライド状況、発表態度、そして質疑に対する対応を評価として加点し、総合評価としました。

学術奨励賞は東京医療センター臨床検査科奥井悠友さんの発表された『急性膵炎における超音波検査での重症度判定の有用性』です。選考理由は、急性膵炎はその病態から超音波検査による重症度判定は難しいとされていますが、技法に巧みな創意工夫を加え、正確な画像描出を行っていること、造影ＣＴ分類判定基準と超音波検査grade分類の相関性が高いことです。また不一致症例についても詳細な原因追求がされていました。このように造影CT重症度判定と同程度の結果を得る事が可能であれば、遜色のない検査法として、臨床的な意義は高く、今後の技術向上や臨床的有用性・発展につながる可能性を高く評価しての受賞となりました。学会特別賞は埼玉病院土岐美幸さんの発表された『当院における「院内認定胎児超音波検査技士」制度とその取得にむけて』です。選考理由は、技師教育が難しい胎児超音波検査の取り組みとして、院内認定制度を考案し、チェックシートを利用することで確実な技術力を担保でき、自信を持って検査に望むことを可能にしています。施設独自の技師育成の取り組み方ですが、実技を重視した院内制度は、技師にとって大きな励みと自信につながり、スキルアップの具体的な方法として、他の施設でも応用が可能と思われます。この院内制度を足がかりに、最終的には（日本超音波医学会）認定超音波検査士の取得が期待できる内容として評価され、受賞となりました。

受賞されました会員および検査科の皆様おめでとうございました。今後のますますのご活躍を祈念しております。

学術奨励賞を受賞して

ＮＨＯ東京医療センター
奥　井　悠　友

この度は第42回国臨協関信支部学会におきまして、学術奨励賞という名誉ある賞を頂き大変光栄に思っております。

今回発表させていただいた演題は「急性膵炎における超音波検査での重症度判定の有用性」です。東京医療センター入職後さまざまな症例を経験する中で、急性膵炎は重症度により予後と治療方法が大きく異なり、重症例では未だ致死率は高く、的確に重症度を見極めなければならない疾患であることを知りました。現在急性膵炎の重症度の評価はCTでは存在していますが超音波検査においては重症度分類が確立されていないため、今回の検証では超音波の検査において重症度の評価を行えないかということを検証しようと考えました。今回の検証にいどむ際まず急性膵炎の診療ガイドラインを読み進めることから始め、実際の症例を検査していきましたが、知識や技術不足から周りの先輩技師の方々にとても助けて頂きました。検証の結果、超音波における重症度分類はCTにおける重症度分類の一致率と良好な結果となりました。このことから予後の経過観察はもちろん、緊急時の診断においても超音波検査は有用であると言えることがわかりました。今後は造影超音波を組み込んで行っていければより確実な重症度分類をしていけると考えています。また、抄録、スライドの作成など主任を始め先輩技師の方々、小松技師長や佐藤副技師長、山﨑副技師長など、多くの方のご指導のおかげだと思っています。今後も頂いた賞を励みに知識、技術を向上させ日々の業務に反映させ頑張っていきたいと思います。

最後に、今学会を開催するに当たり、ご尽力くださいました国臨協関信支部役員および関係の方々に厚く御礼申し上げます。

学会特別賞を受賞して

ＮＨＯ埼玉病院
土　岐　美　幸

この度、第42回国臨協関信支部学会におきまして名誉ある学会特別賞を受賞することができ、大変光栄に思っております。今回の演題は「当院における院内認定胎児超音波検査技士制度とその取得に向けて」です。胎児超音波スクリーニング検査は、胎児の発育や異常の有無を確認する重要な検査です。当院では高い技量を持つ臨床検査技師が胎児超音波スクリーニング検査を施行するために、院内認定胎児超音波検査技士制度を産婦人科超音波専門医と共に制定いたしました。

当制度では、重点的に確認する項目をまとめた“チェック項目一覧表”に、手技上の注意点も盛り込み作成しました。この一覧表に沿って検査を実施したことで、所見の見落とし防止や検査者による手技の差をなくすことができました。また、“手技到達度チェックシート”を用い、描出操作レベルを確認することで自分の苦手箇所に対し重点的に取り組むことができました。

当制度は臨床現場への診療支援に加え、医師・助産師との“チーム医療の構築”や“高い技量を持つ臨床検査技師の育成”と幅広い面で有用な制度です。今回はこのような埼玉病院の取り組みが評価された結果だと考えております。

素晴らしい制度を発足し、臨床検査技師を信頼して検査を任せてくれる埼玉病院に深く感謝し、恵まれた環境にいる自分を忘れないようにしたいです。

この度の受賞は、技師長はじめ検査科の皆様から、たくさんの愛情こもったご指導とご協力があっての賜物であり心より感謝しております。これからも今回の賞を励みに、向上心を持って高い技術・知識を習得したプロフェッショナルを目指していきたいです。

最後に学会の開催にご尽力いただきました国臨協関信支部役員の皆様、運営スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。

国臨協関信支部表彰受賞に寄せて

NHO下総精神医療センター　今　村　ち　さ

第42回国臨協関信支部学会において支部表彰をいただきありがとうございました。推薦していただきました千葉地区会にもお礼を申し上げます。

昭和51年４月にがんセンター病院臨床検査部に採用されて38年間、多くの良き先輩、同僚、後輩に恵まれ、楽しく仕事を続けてこられたことを心から感謝しております。

関信支部学会の発表にはあまり縁がなかった私が、平成９年度から３年間、平成14年度と関信支部の理事を仰せつかり、微力ながら支部活動に携わったのは良い思い出となりました。当時、支部学会でスライド発表からパソコンによるプレゼンテーションを取り入れたもののうまく動かなかったということもありました。また各地区会に参加させていただき、多くの会員の方との情報交換や交流を持てたことは大きな糧となりました。

臨床検査の原点は患者さんのため、正確で精度の高いデータを迅速に報告することです。そのために一人ひとりが目標を持ち、学ぶことを継続することが大事と今更ながらですが、強く思う今日この頃です。

最後に会員の皆様のご健康とご活躍、そして関信支部の益々のご発展を祈念してお礼の言葉とさせていただきます。

NHO水戸医療センター　岡　村　悦　子

このたび、第42回国臨協関信支部学会において支部表彰をいただきありがとうございました。ご推薦いただきました茨城地区会ならびに関信支部役員の皆様方に厚く御礼を申し上げます。国立霞ヶ浦病院に就職して以来38年間良き上司や同僚に恵まれ、ご指導や励ましを受けて今日を迎えることができたことに感謝の気持ちで一杯です。まさに『光陰矢のごとし』

振り返りますと、水戸病院の新築・移転や東日本大震災等を皆で無事に乗り越えてきたことが懐かしく思われます。国立病院から独立行政法人となり来年にはいよいよ公務員を卒業、私も気がつけば卒業、時代の流れを感じている毎日です。ゴールまで残り僅かですが、頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、関信支部の役員の皆様及び会員の皆様のご健康とますますのご活躍を祈念してお礼の言葉にいたします。

NHO相模原病院　川　畑　　久

この度、第42回国臨協関信支部学会において支部表彰を頂きありがとうございました。推薦して頂いた神奈川地区会ならびに関信支部役員の皆様にお礼を申し上げます。

この表彰を頂くことが出来たことは、多くの上司と同僚に恵まれ､ご指導ご助言等を頂いたお陰と感謝しております。

私は、昭和52年に国立東京第二病院に採用されて以来８施設･東京を除く６地区会に所属し､貴重な経験をさせて頂きました。その中で､千葉地区会在籍時に千葉県国病･療精度管理責任者連絡会で委員として携わり、県内９施設の検査精度向上と施設間差解消を目的に活動しました。その成果を関信支部学会に｢千葉県国病・療施設間差解消の試み｣と題し、平成２年の第２報から平成７年の第12報までを微力ながら携わることができたことは、私にとって大きな糧となり、また思い出深いものがあります。

最後に、ご指導頂いた関信支部役員ならびに会員の皆様に心から感謝申し上げると共に国臨協関信支部の益々の発展を祈念してお礼の言葉とさせて頂きます。

NHO西群馬病院　小　池　　朗

この度は、支部表彰を賜り関信支部役員、また会員の皆様にこの書面を借りて厚くお礼申し上げます。

私は、地方の主任技師として40年近く関信支部と関わってまいりました。長く群馬地区会でお世話になっていますが歳を重ねる毎に様々な行事への参加、勉強会に足が遠のいてしまいました。各県の施設等もだいぶ数が減り何かひとつ計画するのも役員、幹事さん大変だと思います。同じ県内でも横の繋がりが地区会を通していたのが、今は転勤によって繋がる様な気がしています。県外に転勤される方は本当に大変だと思います。しかし長い目で見ればさらに繋がりが増えるのでより多くの人と面識ができるのではと思います。諸先輩方の下で地区会の様々な役員と、幹事等を務めさせていただきました。皆様のおかげで無事務めることができ、たくさんの思い出がよみがえってきます。この先、地区会、関信学会など様変わりしていくことと思います。若い有能な技師の皆様がきっと新しい時代を切り開いてくれる事を榛名山の麓より思い描いています。

最後に長い間医療の現場で働くことが出来ましたことお世話になった施設の皆様に感謝しお礼申し上げます。

NHO箱根病院　近　藤　　正

第42回国臨協関信支部学会において支部表彰を頂き有り難うございました。推薦して頂いた神奈川地区会ならびに関信支部役員の皆様にお礼申し上げます。

昭和55年２月１日付けで東京第二病院（現東京医療センター）に採用。以来６施設、35年に亘り検査技師として仕事をさせていただきました。ここまで努められたのは皆様のご厚意によるものと感謝しております。

支部との最初の関わりは採用された年の第８回支部学会です。スライド係を仰せつかり、医療センター（現国際医療）の講堂の暗闇の中､スライドを繰りながら次々と発表される演題を観ていました。そして来年は自分もあそこに立つんだなと思った時、できるかなと不安になったことを思い出します。

その頃の支部学会は抄録も今のように立派なものではなく、文書のポイントもまちまち、手書きのものもありました。
現在のように洗練されたものではありませんでしたが、確かな熱気を感じました。

最後に関信支部役員、会員の皆様の益々のご活躍を祈念してお礼の言葉とさせていただきます。

NHO小諸高原病院　中　野　正　直

第42回国臨協関信支部学会において支部表彰をいただきありがとうございました。推薦していただいた長野地区会ならびに関信支部役員の皆様にお礼申し上げます。

昭和56年4月国立埼玉病院採用以来6施設でお世話になりました。国立埼玉病院ではチームワークの大切さを学び､国立相模原病院では細菌検査と飲酒にいそしみ書面では書けない貴重な体験をいたしました。国立小児二宮分院では一人職場で廃院を経験し、NHO神奈川病院では食事時間を切り詰めて日々ルーチン業務をこなし数ヶ月でのオーダリング導入のお手伝いをさせていただきました。また国立療養所多磨全生園ではハンセン病と園芸を学び、最後の施設であるNHO小諸高原病院では精神科の経験と自然豊かな信州を満喫し、地区会長を3年間勤めさせていただきました。改めて地区会理事ならびに地区会会員に感謝致します。

長野のとある寺の石碑に「かけた情けは水に流し、受けた恩は石に刻め」とありました。33年間お世話になった感謝の気持ちで載せさせて頂きました。最後に関信支部および会員のますますのご発展とご活躍を祈念いたします。

特別講演を聴講して

NHO 水戸医療センター
木　村　元　紀

平成26年9月13日（土）、国立国際医療研究センターにて開催された第42回国臨協関信支部学会において国立病院機構本部臨床検査専門職　小松和典先生に「臨床検査を楽しもう！楽しく検査することから、近未来を考える」と題して講演をしていただきました。

まず「臨床検査を楽しもう」と小松専門職自身の体験談を交えてお話ししていただきました。そのなかで、「医療は、自分の時間ではなく、相手の都合に左右されるため自分自身が楽しいと思えないと仕事をするのは難しい。それなので人間関係や私生活の充実が大切である。」と言っており、私はこの言葉が印象的で、脳裏に焼き付いております。私は臨床検査技師として働いてまだ半年ほどですが、仕事をしながら楽しい・嬉しいと感じたことが幾度となくあります。検査手技が上達し検査がスムーズに運び検査結果が報告された時、採血を行っていて患者様から感謝の言葉を頂いたときなどです。4月の新人教育を受けている当初を思い出してみると、精神的に余裕もなく周りなどは全く見えていませんでしたから、現在のこの状況で日々仕事が出来ているのは、職場の先輩技師の支えや患者様の存在があるからだとお話を聴いて改めて思い知りました。今後も感謝の気持ちを忘れずに、日々精進し業務に励んでいきたいと思います。

また講演の後半「楽しく検査することから近未来を考える」というお話で、臨床検査技師業務範囲の見直し、街頭での簡易検査など臨床検査技師のかかわりについてのお話がありました。「臨床検査業務の幅が広がる」というお話を伺った時、自分自身の担当する分野だけでなく、様々な検査に対応できるような技師にならなくてはと思いました。現在の担当部門の業務に満足することなく、多岐に渡る臨床検査業務の知識・技術の習得をするため、積極的に研鑽していきたいと思いました。

今回の特別講演を聴講して思うことは、まだ臨床検査技師になって日の浅い私ですが、「臨床検査技師になってよかった、将来は臨床検査の仕事を極めたい」と心に誓い、そして一日も早く先輩方に追いつきたいと思いました。

最後に、ご講演をしていただいた小松専門職に心より感謝するとともに、支部役員の方々や関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

部門分科会報告

生理検査部門

NHO水戸医療センター
中　谷　　穏

第42回国臨協関信支部学会にて、生理検査部門分科会にご参加いただいた皆様ありがとうございました。「㊙公開―私の超音波走査術&検査士育成プログラム」と題して、NHO相模原病院　山口秀樹先生より消化管エコーのとり方、国立がん研究センター中央病院　宮越基先生より膵臓の描出方法についてご講演していただきました。私(中谷)より循環器における病変の捉え方を講演いたしました。また症例の提示では、症例の考え方のプロセス、画像描出のテクニックや知識が超音波診断に欠かすことのできない事を再認識したことと思います。我々の超音波検査技術の向上によって、患者さんに有益となる情報を臨床医に伝え、正確な治療が受けられれば、検査技師冥利につきます。

「超音波育成プログラム」の講演では、これから超音波検査士取得にあたりどのように成長すべきか、既に取得している方が自己研鑽していくすべを少しでも学ぶ事ができたなら幸いです。

最後に、超音波検査士取得はスタート地点に立っただけです。その後の成長が非常に重要であり、周囲とのコミュニケーション・学会参加・発表・講演をしていくことにより、よき超音波検査士となっていくことを望みます。

検体検査部門

NHO千葉東病院
太　田　修　司

検体検査部門では、血清ルーチンアドバイザーであるNHO高崎総合医療センターの田中暁人主任により「免疫抑制・化学療法により発症するB型肝炎対策」と題して、①B型肝炎について、②HBVの再燃および対策ガイドラインについて、③B型肝炎対策についてご講演いただきました。生化学分野からは、私が「測定結果に影響を及ぼす変動要因」と題して、①採血関連による測定値への影響、②試料の取扱い方による測定値への影響などについてお話しさせていただきました。これらの知識は日頃の検体検査を行っていく上で、知っておかなければならない基礎となる事項ですので、新人の方も日々意識しながら業務に取り組んでいただきたいと思います。また、この度の部門分科会は、若手技師の育成とスキルアップがテーマになっており、内容や用語が難しくなりすぎないよう心がけましたが、分かりやすく正確な情報を伝達することの難しさを痛感しました。中堅技師である我々は、自己研鑽に努めるだけでなく、新人や若手技師に分かりやすく教える技術（伝達する技術）も習得しなければならないと実感するとともに、今後しっかり取り組んでいきたいと思います。

最後に、検体検査部門のRA制度は十分活用されていない状況です。生化学・血清分野の他に血液、一般検査担当もおりますので、日常業務における問題点や疑問点などありましたらお気軽にご相談ください。

今回の分科会が新人や若手技師にとって、今後の検査業務の一助になれば幸いです。

微生物検査部門

NHO東京病院
太田和　秀　一

平成26年９月13日（土）第42回国臨協関信支部学会の中でRAによる分科会が開催されました。今年1月より微生物のRAに拝命され最初の大仕事です。渡辺委員長と私は細菌分野を担当し、渡辺委員長が「細菌検査の適正な実践を考える」～過剰な検査していませんか？～というタイトルで発表を行い、私は各施設にアンケート調査をお願いし、回収した集計結果を報告しました。アンケートの内容は渡辺委員長と考え、簡単に答えられる負担のかからないものとしました。皆様にはアンケート調査期間が短くお忙しいなかでの回答に感謝しております。アンケートが回収され集計していくうちに、いろいろなことが解りました。その一つは予想していたことですが、細菌検査に従事している技師が殆どの施設で1～2名で全体の67％でした。1名体制施設の問題点は多く、バックアップがとれていないため育成ができない、もっと勉強したいが時間がとれない。勉強会も近くで行っていない環境なのでキャリアアップにつながらず資格も取りづらいとの意見が多く、集計結果では有資格者は東京近郊に集まっているのが現状でした。細菌検査は人材育成に時間を要するため危機感を感じました。もう一点は日当直時、休日夜間における血液培養検査対応についてです。59％の施設は何も対応していませんが、41％の施設はグラム染色等の実施・対応をしており、対応施設の75％はグラム染色後鏡検、陽性報告とサブカルチャーまで対応していたのはとても驚きでした。細菌担当者でも血液培養からのグラム染色は判断が難しいので凄いことだと感じました。

今後はアンケート調査の内容を参考にRAとして相談や場合によってはレクチャー等をしていきたいと考えています。今回の分科会は私にとって大変有意義で意味のあるものでした。

病理検査部門

国立がん研究センター中央病院
渋　木　康　雄

平成26年９月13日（土）国立国際医療研究センター病院に於いて、第42回国臨協関信支部学会が開催され、ルーチンアドバイザーを中心に「若手技師の育成・スキルアップ」をメインテーマとしたディスカッション形式の部門分科会が企画されました。病理検査部門は、「医療安全」と「感染対策」の2部構成で行われました。
関信支部学会では初の試みであったため手探り状態での準備となりました。

第１部では、千葉医療センターの山本主任から、事前に実施された「病理分野における医療安全に関するアンケート」の結果報告がされ、質疑応答では参加者フロアーからの活発な発言が相次ぎ、大変な盛り上がりをみせ有意義な会となりました。どの施設においてもミスを無くすための工夫がなされていました。自施設で行っている操作が「当たり前ではない」という事を痛感しました。

また第２部では、千葉東病院の菅野主任から感染対策（主に抗酸菌）の報告がされました。特に発煙管を用いてクリオスタット内の空気流動が分かり易く説明され、庫内空気が著しく拡散されていく様子を目の当たりにして、凍結切片作製が抗酸菌暴露に繋がることを改めて思い知らされました。

この分科会で知り得た事を一つでも自施設で実践して頂けたら幸いに思います。最後になりましたが、この会を企画・運営して頂きました国臨協関信支部役員の皆様ならびにアンケートにご協力頂きました方々に深く感謝申し上げます。

第２回国臨協関信支部主催研修会を終えて

ＮＨＯ西埼玉中央病院
益　田　泰　蔵

平成26年７月12日（土）に国立国際医療研究センター国際医療協力局にて第２回国臨協関信支部主催研修会が開催されました。講演内容は「中堅技師へのメッセージ」として、国立がん研究センター中央病院の吉田茂久主任技師、ＮＨＯ水戸医療センターの中谷穏主任技師、ＮＨＯ高崎総合医療センターの田中暁人主任技師、国立病院機構関東信越グループ人事担当の野原祐二人事係長に講演をして頂きました。第一線で活躍されている主任技師3名と事務職の立場から我々臨床検査技師へお話して頂ける貴重な機会となりました。当日は暑さ厳しい日にもかかわらず170名以上の参加者があり、会場は満員となりました。学術的な研修会ではなく人材育成に関する研修会を企画した関信支部の熱い思いが通じたのか多くの方々の参加がありました。

講師の方々には、ご自身が歩んできた足跡や経験を踏まえて講演をして頂きました。日常業務において注意していたことや考え方などを聞き、再認識する事柄などもありました。認定資格取得までの思いや取り組みなどは、これから目指す方々には良い道標になったのではないでしょうか。講師の方々の話を聞いて共通する事は、何事にも情熱を持って取り組んでいるということでした。日常業務を日々行い、その中で更に向上心を持ちそして努力をしている。自分の信念を貫き通す「情熱」、資格を取得したいと思う「情熱」がメッセージとして伝わってきました。「中堅技師へのメッセージ」とのタイトルでしたが、中堅技師のみならず全ての人々に伝わったメッセージではなかったのではないでしょうか。総合討論でも、講師の方には会場からの質問に親身にお答え頂き、有意義な研修会になりました。

この研修会で何かを感じ取っていただけたのではないでしょうか。

最後になりましたが、講演をして頂きました講師の先生方、またこの研修会を企画して頂きました峰岸支部長はじめ関信支部役員の皆様に心より感謝いたします。

平成26年度関信支部主催ビアパーティーに参加して

国立国際医療研究センター病院
百　田　尭　史

前日までの悪天候とうって変わり、台風一過でよりビールがおいしく感じる快晴の中、関信支部主催のビアパーティーが開催されました。私はビアパーティーには初参加で、また到着が遅れたために、知り合いの集まりではない場に着席して、緊張と戸惑いを感じながら会が開始されました。しかし、共通の知り合いがいることをきっかけに、私の顔を知らない諸先輩方が話しかけてくださり、お酒の力を借りつつ徐々に緊張もほぐれ、会を楽しむことができました。話かけてくださった先輩方のように、私もいずれ後輩が出来た時に、自分から話しかけて緊張をほぐしてあげられるような、自分がしていただいて嬉しかったことを実践できる先輩になりたいと思います。

会が進むとみなさん徐々に自席を立ち移動して各テーブルで話に花をさかせており、諸先輩方の交友関係の広さを見て、人事交流などでいろんな人に出会うことができる国臨協の良さを感じました。私も同僚と共にテーブルを移動してたくさんの方にご挨拶、お話をさせていただくことができ、同じ施設で働いている方をはじめ、他施設の方々とお話をすることで、色々な観点、経験を知ることができ、より広い視野で物事を考えることの大切さを感じることができました。諸先輩方にいただいた言葉を忘れず、自分の視野を狭めないように心がけて日々の業務にあたりたいと思います。

最後になりましたが、このような会を企画していただきました関信支部役員の皆様に深く感謝申し上げます。

第33回国臨協ＯＢ会関信支部総会・懇親会に参加して

ＮＨＯ災害医療センター
後　藤　信　之

平成26年６月７日(土)アルカディア市ヶ谷において第33回国臨協ＯＢ会関信支部総会・懇親会が開催されました。当日は悪天候にも関わらずOB会会員と、国臨協本部、技師長協議会、国臨協関信支部の役員により、総勢52名の参加者がありました。藤川事務局長の司会進行で総会がはじまり、小原会長の挨拶では「本会は33回目を迎えることができ長年に亘り先輩たちの熱意と努力により継続することができました。今後は先輩、同僚、後輩の仲間が懇親、交流を深める場所として継続発展していきたい。」という力強いお話がありました。また、新しく作成された国臨協ＯＢ会関信支部のロゴマークの紹介がされ、このロゴマークはピンバッチにするとのことでした。

総会が終了すると懇親会に移り、ＯＢ会員の皆様方の近況報告が披露されました。それぞれが第2の人生をご自身の目標に向かって充実した生活をされていることを実感いたしました。その中でもご自身で畑をもち自給自足で果物や野菜を育てている方が多く見受けられたのが印象的でした。

その後、恒例のカラオケ大会、記念撮影がありと現在の臨床検査室の礎を築いた方々と親睦が深められたことは大変勉強になり、懐かしい方との楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。

今の私たちが安心して働けられるのは、ＯＢの皆様たちのご努力の賜物であると再認識しました。私もこの楽しいＯＢ会に定年後には是非入会したいと考えています。

これからの国臨協ＯＢ会関信支部会が益々の継続発展するように祈念申し上げます。

平成26年度国臨協ＯＢ会関信支部役員

会長	小原千秋
副会長	宮野勝秋
事務局長	藤川淳策
(事務局補佐)	奥田　勲
会計	岩村義昭
(会計補佐)	大貫經一
会計監査	渡邊純夫
会計監査	今野清子

役員推薦委員

委員長	河村静江
委員	片山紀美代
委員	三浦隆雄

地区会だより

国臨協関信支部神奈川地区会交流会に参加して

NHO神奈川病院
中　井　敦　子

平成26年６月21日（土）神奈川地区会主催レクリエーションが小田原の「鈴廣かまぼこの里」にて開催され、参加者32名で蒲鉾作りを体験しました。6月という梅雨時期のため雨模様の日々でしたが、当日は良い天候に恵まれました。会場へ向かう途中の箱根登山鉄道沿線の紫陽花は、実に見ごろでした。

蒲鉾作り体験ブースは「かまぼこ博物館」の一角にあります。蒲鉾の歴史や素材についての展示が、模型やクイズ形式になっていて、子供でも楽しめるように工夫がされています。蒲鉾板を使用して描かれた絵も展示されていて、館内は見どころ満載です。

体験は職人さんのデモンストレーションから始まります。慣れた手つきで、すり身にされた魚（イサキ）を、蒲鉾包丁という専門の道具を使って板や棒に形づけていきます。あの滑らかな半月形を美しく仕上げるには、5年要するとの事です。

次は私たちの番です。板上にこんもり盛りつけたいのですが半月形にするのが難しく、苦戦しました。参加者はカメラを向けられても笑みを忘れるほど集中して取り組みました。

蒸し上がりを待つ間、近くのビュッフェレストランで昼食・懇親会が行われました。料理は種類豊富で、飲み物・デザートも充実していました。また、他施設の方々と交流を深めることができ、有意義な時間を過ごせました。

蒸し上がった蒲鉾はお土産に持ち帰り、家族でおいしく頂きました。小川技師長は購入した最高級かまぼこ1,600円と、自分で作った品を食べ比べた結果、自分で作った蒲鉾のほうがおいしかったそうです。

最後に、このような素晴らしい企画をして頂きました役員の皆様に、深く感謝申し上げます。

地区会だより

国臨協関信支部茨城地区会総会・研修会を終えて

NHO霞ヶ浦医療センター
千　葉　雅　裕

平成26年６月21日（土）茨城県民文化センターにおいて、第34回国臨協関信支部茨城地区会研修会定期総会が開催されました。当日は天候に恵まれ汗ばむ程の暑さでしたが、多数の会員様および千葉東病院臨床検査科の皆様に出席していただきました。また、来賓として野田臨床検査専門職、峰岸支部長および荘司理事のご臨席を賜りました。総会に先立って行われた学術研修会ではNHO千葉東病院臨床検査科の中島先生、石川先生、斉藤先生より「移植医療における臨床検査技師の関わり」と題してご講演いただきました。移植医療における超音波検査の役割、移植医療におけるHLA検査、千葉東病院で行われた日本でまだ数例しかない膵島移植についてなど、移植に携わったことのない私には難しい内容でしたが、とても興味深く貴重なお話をいただき移植に対し興味をかきたてられました。野田臨床検査専門職からは「今、臨床検査部門に求められるものとは」と題しNHOの現状や今後の運営方針、人材育成など臨床検査技師の将来展望を含めたご講演をいただきました。

総会・研修会終了後には会場に併設されているレストランにおいて懇親会が行われ、和やかな雰囲気の中楽しい時間を過ごしました。

最後になりましたが、お忙しい中ご講演して下さいました中島先生、石川先生、斉藤先生ならびに、ご講演・ご臨席を賜りました野田臨床検査専門職、峰岸支部長、荘司理事にはこの場をお借りし心より感謝申し上げます。

平成26年度国臨協関信支部茨城地区会役員

会　　長：青　木　貞　男（ＮＨＯ茨城東病院）
副 会 長：藤　澤　紀　良（ＮＨＯ水戸医療センター）
副 会 長：児　玉　徳　志（ＮＨＯ霞ヶ浦医療センター）
事務局長：赤　堀　良　道（ＮＨＯ茨城東病院）
理　　事：山　田　浩　司（ＮＨＯ水戸医療センター）
理　　事：小　林　昌　弘（ＮＨＯ茨城東病院）
理　　事：千　葉　雅　裕（ＮＨＯ霞ヶ浦医療センター）

国臨協関信支部長野地区会総会・研修会を終えて

NHO東長野病院
古　田　　学

平成26年6月28日（土）ＮＨＯ信州上田医療センター講堂において第29回国臨協関信支部長野地区会総会が開催されました。当日は会員24名が参加し、来賓として野田臨床検査専門職、関信支部より岩﨑副支部長、菊池理事のご臨席を賜りました。

初めに定期総会が行われ、議長に選出されたＮＨＯまつもと医療センター中信松本病院唐沢副技師長進行のもと平成25年度経過報告、平成26年度事業方針が審議されました。予算案などについて、いくつか意見が出ましたが、すべて可決されました。新しい理事が紹介され総会は終了になりました。その後、菊池理事より関信支部の予定及び活動報告をして頂きました。

野田臨床検査専門職には「今、臨床検査部門に求められるもの」として講演をいただきました。初めにこの4月より専門職になられたということで、自己紹介とこれからの方針についてお聞きしました。また、今年度から機構の「関東信越ブロック」という名称が「関東信越グループ」に変更になり、平成27年4月からＮＨＯ職員の非公務員化が決まっているというお話がありました。新しい話として国立病院機構と独立行政法人地域医療推進機構（旧年金・健康保険福祉施設整理機構）の間でいろいろな交流が行われるかもしれないということでこれからどうなるのか気になるところです。

講演終了後、専門職、関信支部の皆さんを交え会員同士の親睦を深めるため懇親会場へ移動しました。専門職は以前長野地区会に在籍していたこともあり昔話をまじえ大いに盛り上がりました。

最後になりましたが、遠方よりご臨席を賜りました野田専門職、岩﨑副支部長、菊池理事に心よりお礼申し上げます。

平成26年度国臨協関信支部長野地区会役員

会　長：山　﨑　　剛（ＮＨＯ東長野病院）
副会長：唐　沢　秀　樹（ＮＨＯまつもと医療センター中信松本病院）
理　事：長　澤　大　輔（ＮＨＯまつもと医療センター松本病院）
理　事：横　井　貴　之（ＮＨＯ信州上田医療センター）
理　事：藤　田　圭　子（ＮＨＯ小諸高原病院）

地区会だより

国臨協関信支部千葉地区会総会を終えて

国立国際医療研究センター国府台病院
江守　佳奈子

平成26年７月５日(土)、国臨協関信支部千葉地区会総会がＮＨＯ千葉医療センター３Ｆ研修室において開催されました。会員55名の参加に加え、来賓として野田専門職、支部からは後藤事務局長、瀬戸理事にご臨席を賜りました。

はじめに独立行政法人国立がん研究センター東病院の前澤副臨床検査技師長に「ISOの概要と認定を取得して」について講演を頂きました。技師長・副技師長だけでなく、主任技師や一般技師など、それぞれの立場で理解しておくことを分かりやすく教えて頂きました。

続いて、野田専門職からは国立病院機構の現状についての報告と、人事関連、人材育成など非常に多くの内容についてお話頂きました。特に、自己啓発の話では自分自身反省する部分が多くありました。今後は気持ちを新たに、目標を持って前向きに仕事をしようと思いました。

定期総会は今村会長の挨拶に始まり、来賓の後藤事務局長よりご挨拶、瀬戸理事より関信支部活動報告が行われました。引き続き議長に選出されたNHO下志津病院の久間副臨床検査技師長の進行のもと平成25年度経過報告・会計報告・平成26年度事業方針案・予算案が審議され、会員の承認をもって無事に終了いたしました。

総会終了後には場所を千葉駅の居酒屋『NIJYU-MARU』に移し懇親会が行われました。つくば国際大学の當銘教授にも出席して頂きました。多くの方が席を移動しながら会員間の親睦を深めていました。笑い声も多く聞こえ、楽しい雰囲気の中あっという間の2時間半でした。

最後になりますが、今回講師をしてくださいました前澤副臨床検査技師長はじめ、講演会を企画・開催してくださいました千葉地区会役員の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成26年度国臨協関信支部千葉地区会役員

会　長：吉川英一（国立がん研究センター東病院）
副会長：永井信浩（国立国際医療研究センター国府台病院）
理　事：会田春光（ＮＨＯ下総精神医療センター）
理　事：斉藤友永（ＮＨＯ千葉東病院）
理　事：則武　碧（ＮＨＯ下志津病院）
理　事：小松千夏（ＮＨＯ千葉医療センター）

国臨協関信支部千葉地区会研修会に参加して

国立がん研究センター東病院
相羽拓矢

平成26年７月５日（土）、NHO千葉医療センターにて開催された国臨協関信支部千葉地区会・第33回総会および研修会に参加いたしました。「ISOの概要と認定を取得して」という表題で当院の副臨床検査技師長である前澤直樹先生より講演を行っていただきました。

講演の内容はISOの「基本用語について」「4章の要求事項の取り組み」「5章の要求事項の取り組み」「ISO15189認定を取得して」の4項目に重点を置いての説明でした。まず、ISOとは国際標準化機構のことで「International Organization for Standardization」の略称であり、ISO15189とは臨床検査室に特化した内容の国際規格になります。その他に「規格」や「標準化」など普段聞きなれない言葉が多かったのですが、解りやすく解説していただきました。

次に4章、5章の要求事項の取り組みについてですが、4章とは「管理上の要求事項」のことであり、主に「品質」に関する項目で、品質マネジメントシステム（QMS）を基に品質マニュアルや作業手順書（SOP）を管理します。5章とは「技術的要求事項」のことで、主に「能力」に関する項目になり、ここでは個人の力量や作業環境・検査機器・試薬などを管理します。言葉だけで聞くと難しい内容と思われますが、これらの項目を実際にルーチンで使用している記録簿や図表などを提示し説明していただき、更に理解が深まりました。

実際に当院でISOを取得して、私自身が感じた一番の変化は検査科全体が組織目標を共有化できたことにより全員の業務に対するモチベーションが向上したことだと思います。しかし、前澤先生の話にもあったようにISOは取得することだけが目的ではなく、取得したことに満足せずにさらに継続的に『検査データの精度や信頼性』を向上させていくことが真の目的だと考えます。

最後になりましたが、講演いただいた前澤先生、研修会を企画・開催していただいた千葉地区会役員の皆様に心より御礼申し上げます。

国臨協関信支部千葉地区会・研修会(文化交流会)に参加して

NHO 千葉医療センター
宮　澤　智　孝

平成26年5月17日(土)、国臨協関信支部千葉地区会主催の研修会(文化交流会)が千葉県船橋市のサッポロビール千葉工場にて開催されました。春の陽気でポカポカと温かいなかビール工場見学とビールの試飲、さらにその後はジンギスカンを食べながらの文化交流会を楽しみ、多くの会員の皆様で盛り上がりました。

この春に新採用として千葉医療センターに配属され、同じ千葉地区の施設で働く諸先輩方や新採用の同期とお会いする初めての機会でしたので緊張しておりましたが、千葉医療センターの先輩方にサポートして頂きながら、多くの方にご挨拶させて頂くことができました。諸先輩方の様々な楽しいお話とお酒の力で徐々に緊張は和らぎ、あっと言う間に二時間が過ぎていきました。

普段は別々の施設で働いているため意識しづらいのですが、こんなにも多くの先輩・仲間がいるのだなと文化交流会に参加して改めて実感する事ができました。仕事や技師としての目標に始まり、息抜きなど、技師として、また社会人としての貴重な財産となるお話を数多く伺うことができ、大変勉強になったのと同時に、このような先輩・仲間がいるのだと心強く感じることが出来ました。

最後になりましたが、この会を主催、運営してくださいました千葉地区会の今村会長及び千葉地区会理事の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

第62回日本輸血細胞治療学会「優秀演題賞」を受賞して

国立がん研究センター中央病院
臨床検査部輸血管理室
吉　田　茂　久

この度、私は平成26年５月15日から17日の３日間、奈良県文化会館を中心に３会場で開催された、第62回日本輸血・細胞治療学会「EBMに基づく輸血・細胞治療から」において優秀演題賞を受賞いたしました。本賞は、奈良県で本学会が開催された第31回（昭和58年）から31年ぶりの開催を記念して、今回に限って設けられた賞で、一般演題約300題の中から20題が選ばれ授与されました。

発表演題名は、「当院における造血幹細胞輸注に伴う有害事象の後方視的検討」です。造血幹細胞の輸注時には、通常の輸血で出現する有害事象（アレルギー反応など）に加え、RPMI1640などの細胞培養液やDMSOなどの人体への投与が認められていない薬物の輸注、大量の抗凝固剤の輸注・凍結解凍後の細胞輸注などが行われるため、重大な有害事象が発生しうる状況にあり、大量に輸注される白血球やABO major mismatch移植などで行う赤血球除去処理などが身体に及ぼす影響なども把握されていません。今回、2008年1月から2013年10月に当院で造血幹細胞移植を実施した652名を対象に、有害事象の種類・程度・頻度などの検討結果を報告しました。結果は、造血幹細胞移植時の有害事象発生頻度は10.4％で、移植細胞別の発生頻度は骨髄が13.5％、末梢血幹細胞18.4％、臍帯血3.8％でありました。有害事象症状は、骨髄で皮疹25%、呼吸困難21%が高く、末梢血幹細胞では呼吸困難45%、嘔吐・嘔気24%でした。凍結解凍処理後の末梢血幹細胞移植では、解凍時の顆粒球細胞障害や赤血球の溶血などの影響によるものと考えられる呼吸困難（SpO_2低下）と細胞保護液の影響によると考えられる嘔吐・嘔気症状を多く認めました。骨髄液の同型移植では、輸注量が800mLを超える事例で輸血関連循環負荷（TACO）に類似した症状を認めました。この結果より造血幹細胞の輸注において重篤な有害事象を起こす可能性が高いことが確認されました。

以上の発表内容が評価され優秀演題賞をいただくこととなりました。大変光栄なことであり、これからの業務の励みにしていきたいと思います。

今後、結果をもとにガイドライン（評価基準など）を作成し、安全な造血幹細胞移植に役立てることに努めたいと考えています。最後に、今回の発表にあたりご指導いただきました輸血療法科 田野崎科長はじめ皆様に感謝いたします。

「国立病院の感染症検査を考える会」発足について

国立病院の感染症検査を考える会
代表　青　木　貞　男

現在の微生物検査は、ご存じのとおり従来の感染症の診断および治療のための検査だけを行っていればよいわけではありません。易感染患者の増加に伴う日和見感染症の増加や薬剤耐性菌の出現により院内感染防止対策のための知識や検査が要求されるようになってきています。このような状況に対応するためには、施設間の横のつながりを強化し、より多くの情報が必要だと思います。9名の認定臨床微生物検査技師にお話をしたところ、ご賛同をいただき「国立病院の感染症検査を考える会」を９月13日国臨協関信支部学会当日発足させました。今後、微生物に関する手技と学術向上を目指し、感染症の診断および感染対策に寄与することを目的として活動していきます。具体的には、主にインターネットを利用して会誌「レイジング」の配信を行い、情報の共有を図っていきたいと考えておりますのでより多くの方々に参加していただきたい。事務局より会誌を各施設へ配信しますのでご供覧していただければ幸いです。また、微生物検査に関することで質問等がございましたら下記の認定臨床微生物検査技師にお問い合わせください。認定臨床微生物検査技師には「臨床微生物学と感染症検査法の進歩に呼応して、これらに関連する臨床検査の健全な発展普及を促す」という使命がありますので、全力で対応させていただきます。

青　木　貞　男　（代表　ＮＨＯ茨城東病院）
渡　辺　　靖　（ＮＨＯ西新潟中央病院）
太田和　秀　一　（事務局　ＮＨＯ東京病院）
後　藤　智　彦　（ＮＨＯ埼玉病院）
樋　口　晶　子　（ＮＨＯ東京医療センター）
若　井　智　世　（国立成育医療研究センター）
望　月　規　央　（国立精神・神経医療研究センター病院）
荘　司　　路　（国立がん研究センター中央病院）
守　屋　　任　（ＮＨＯ災害医療センター）
矢　﨑　晴　識　（ＮＨＯ栃木医療センター）

国臨協関信支部今後の予定

月	日	曜日	学術部	地区会	その他
11月	8日	土曜日		新潟地区会総会	
	13日	木曜日			臨床検査部門合同懇親会
	14日	金曜日			第68回国立病院総合医学会
	15日	土曜日			第68回国立病院総合医学会
	29日	土曜日		栃木地区会総会	
12月	6日	土曜日		東京・山梨地区会総会	
	13日	土曜日	第４回研修会		

第200号（新年号）の表紙写真を会員の皆様から募集いたします。採用された方には粗品を差し上げますので、奮ってご応募ください。
（募集期限は11月30日まで）

■宛先　ＮＨＯ神奈川病院　研究検査科　山崎　直樹
電話：0463-81-1771
E-mail：n-yamaza@hosp.go.jp

人事異動

【平成26年7月1日付　採　用】

氏名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
吉田　陽子	相模原病院	技師	国立成育医療研究センター	非常勤

【平成26年10月1日付　配置換え】

氏名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
内野　厳治	国立精神・神経医療研究センター病院	技師長	村山医療センター	技師長
長田　裕次	村山医療センター	技師長	国立療養所栗生楽泉園	技師長

【平成26年10月1日付　昇　任】

氏名	新施設名	新職名	旧施設名	旧職名
清水　紀臣	国立療養所栗生楽泉園	技師長	信州上田医療センター	副技師長
中條　幹夫	信州上田医療センター	副技師長	高崎総合医療センター	主任技師
白井　洋平	高崎総合医療センター	主任技師	国立がん研究センター中央病院	技師

編集後記

第42回国臨協関信支部学会に多数のご参加ありがとうございました。皆様にお会いして、大きな組織の一員であることにあらためて気づかされました。自分の思いもよらないところで多くの方々と関わりを持ち、また助けられているのでしょうね。第68回国立病院総合医学会も間もなく開催されます。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

さて、関信支部ニュース次号は200号に到達します。記念号増ページにてお届けします。

（広報　瀬下明子）

覚えよう 身につけよう 検査技術！ 腸内細菌科の同定法　Ⅱ（各論）

国立精神・神経医療研究センター病院　臨床検査部　望月規央

はじめに

前回は，腸内細菌科の定義や分類，同定に必要な鑑別培地について述べた．今回は，具体的な腸内細菌科の生化学性状などを確認したいと思う．基本的な生化学性状を覚えておけば，日常使用している自動機器のパネル判定における菌種同定の確認に，きっと役立つものと，私は確信している．

1　集落（コロニー）からの菌種推定

分離培地上の集落の特徴から推定可能な腸内細菌を示す（表Ⅱ-1）．注意点は，同一菌種でも菌株毎に個性があり，典型的な性状（集落形態・糖分解など）とは異なる場合がある．しかし典型的な糖利用能や生化学陽性反応が陰性化する事があっても陽転化は起こらない．具体的には，乳糖分解菌種の中に乳糖非分解株は存在するが，乳糖非分解菌種で乳糖分解株は存在しない．

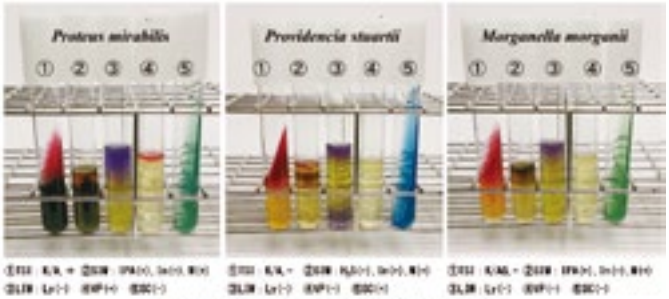
2　腸内細菌科の生化学鑑別性状

第1～4群別に，代表的な腸内細菌科の生化学鑑別性状のフローチャートを示す（図Ⅱ-1）．また，第1～4群の代表的な菌種の確認培地における性状写真を示す．（図Ⅱ-2～5）．

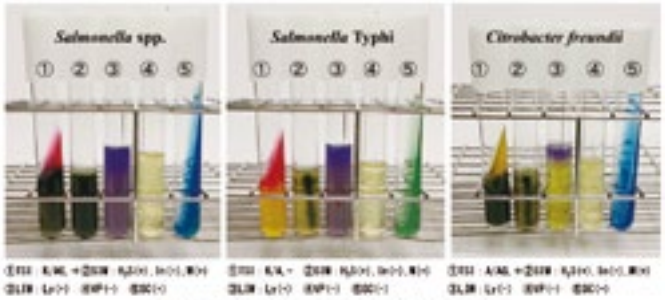
表Ⅱ-1　集落性状から推定可能な腸内細菌

特　徴	推定可能な菌種
乳糖分解	*Klebsiella pneumoniae*，*K. oxytoca* *Enterobacter cloacae*，*E. aerogenes* *Escherichia coli*，*Citrobacter* spp.
黒色集落（H_2S：SS寒天培地）	*Salmonella* spp.，*Citrobacter* spp.，*Proteus* spp.
赤色色素産生	*Serratia marcescens*（数%）
ムコイド型集落	*Klebsiella pneumoniae*，*Escherichia coli*（まれ）
SWARMING（遊走）	*Proteus* spp.（血液・チョコレート寒天培地）
アンモニア臭	*Proteus* spp.，*Morganella* spp.，*Providencia* spp.

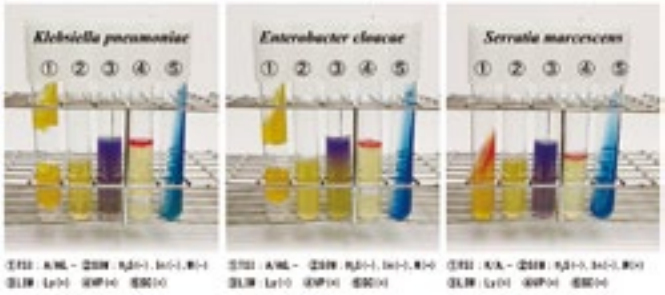
図Ⅱ-1　腸内細菌科の生化学鑑別性状



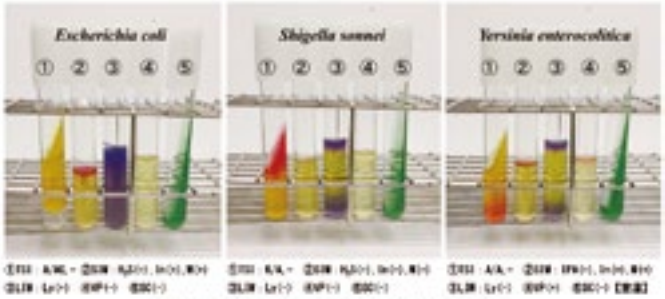
図Ⅱ-2　第1群の確認培地における性状



図Ⅱ-3　第2群の確認培地における性状



図Ⅱ-4　第3群の確認培地における性状



図Ⅱ-5　第4群の確認培地における性状

おわりに

腸内細菌科の同定は，それぞれの菌種における基本的なパターンを覚える事が大切である．多くの菌を同定し，集落を睨みながら，経験を重ねる事を望んでやまない．

参考文献
1）John G. Holt, et al: Bergey's Manual of DETERMINATIVE BACTERIOLOGY. 9th ed. Lippincott, Philadelphia, 2000
2）Patrick R. Murray, et al: Manual of CLINICAL MICROBIOLOGY. 9th ed. ASM Press, Washington DC, 2007
3）小栗豊子（編）：臨床微生物検査ハンドブック　第4版．三輪書店，東京，2011
4）日本臨床微生物学会：腸管感染症検査ガイドライン．日本臨床微生物学会雑誌　第20巻．日本臨床微生物学会，2010
5）山中學，吉野二男，清水加代子（編）：新臨床検査技師講座 11 微生物学　第1版．医学書院，東京，1986
6）栄研化学株式会社：栄研マニュアル　第10版．栄研化学株式会社，東京，1996

次回からは病理検査部門です。